

ぼくのきいろいぼうし

山口大学教育学部附属山口小学校

一年

原田

樹ツキ

お店でぼうしをみつけた

かわいいぼうし

黄色いぼうし

かかみのまえてかぶってみた

ぼくにピッタリ

これはぼくのぼうし

ーまん中にフワロウかついている

レジでタグを切ってもらった

これでぼくのぼうし

ぼくのあいぼうのぼうし

フワロウか笑ってみえた



かせ

山口大学ふぐく山口小学校

二年 ふじあろ いちか

ごーごー

はいいろのかせ

ぴゅーびゅー

ももいろのかせ

ひゅーるひゅーる

みじりのかせ

まちじゅーをはしりまわる

さーさー

みずいろのかせ

すーすー

きいろのかせ

ぼーうぼーう

おらさきのかせ

いえの中とびまわる

みんなのまわりでいっしょにうたってる



優秀賞

うはひあののは^こび^ようかい

山口市立湯田小学校 一年

村上 時希

ふ^あらど^れふ^あしし

めぬえ^っとをひくんだよ

おひめさまが

たのしくおどろような^きよ^くなんだ

わたしのしんぞう^ふお^るてみたい

ど^くん^どく^んしてたけど

みんながち^もくしてくれて

すたあにな^った^きぶん

ふ^あらど^れふ^あしし

わたしのゆ^びが^おどりはじめた

り^ずむ^にの^ってくるくるまわろう

けん^ばんの^はじ^から^はじ^まで^が

わたしのすてえじ

は^れり^いな^にな^った^きふ^ん

ふ^あらどどれ^あふ^あしし^あらど^あふ^あみみ^あふ^あ
えんそうが^あおわると
たくさん^あはくし^あを^あもら^あた^あよ
わたしの^あしんぞう^あで^あくれ^あし^あん^あど^あ
だんだんと^あおち^あつ^あいた
い^あす^あか^あら^あお^あり^あて
て^あい^あれ^あい^あに^あお^あし^あぎ^あを^あす^ある^あと
わたし^あほん^あと^あう^あの^あ
お^あひ^あめ^あさ^あま^あに^あな^あた^あぎ^あい^あん

秘密の花園

山口大学教育学部附属山口中学校 一年

白石 菜々子

今日も 私は

色とりどりの表紙つぼみを

柔らかく 見つめる。

気づけば 右手は

蝶のように 踊る。

中でも一際目立つ表紙つぼみに

右手は留とまった。

また露あみが付ついていた。

初恋のように、素晴らしく輝きらいて見えた。

私が蕾つぼみをそとと開ひらくと、

異国の香りが

辺りに立ち籠かこめた。

次第ついでに、私と陰かげが 入れ代かわる。

花はなの外ほかに、私わたしは存在ありない。

花が閉じようとしている時
私は陰と代わる。
現人と環る。やがて静まる。

美しい西日が花々を照らす。
図書室——私の「秘密の花園」だ。

前
へ
前
へ

上
へ
上
へ

か
つ
て
の
わ
た
し
の
こ
ろ
60%

き
つ
と
出
会
う
の
は
ち
が
う
場
所

次
に
100%
の
わ
た
し
に
な
る
の
は

き
つ
と
今
よ
り
高
い
と
こ
ろ

おじいちゃん

附属山口小学校 6年 細田 琉伊

ねえ おじいちゃん

ぼく 6年生だよ

何回聞いても大きくはならないよ

ねえ おじいちゃん

何回も店員さんを呼んだらはずかしいよ

ねえ おじいちゃん

ひいおばあちゃん

お母さんのことがもう分からなくなった

ねえ おじいちゃん

おじいちゃんもぼくをわすれちゃうのかな

パスルした思い出に行っちゃうのかな

ねえ おじいちゃん

でもね

大丈夫

忘れてしまっても大丈夫

思い出せばぼくがちゃんと覚えておくから

ぼくがおじいちゃんを大好きだったこと
おじいちゃんがぼくを大好きだったこと
ずっとずっとぼくの中にちゃんとあるよ

ねえ おじいちゃん

だからね

大丈夫

忘れてしまっても大丈夫

楽しい思い出 これからも続いていくよ

部屋がわからなくなっても大丈夫

ぼくが探^{たん}に行くよ！

ねえ おじいちゃん

ほらね

大丈夫

ぼくがちゃんと覚えておくから！

また遊^{あそ}びに行くよ

いつも 忘れからも ありがとう

ねえ おじいちゃん・・・

14から今へ

山口市立湯田中学校 二年 伊藤 華

14、初めてもらった番号

13、13時から始まる練習

12、12人で活動する 毎日

11、1 on 1

10、コートの中には10人

9、苦しかった ジャトルラン

8、先輩から伝き継いだ 背中の番号

湯田中学校

つながっているとは思わない この毎日が

カウントダウンのように過ぎてゆく

つながって行くかもしれない今この一瞬

八の中で教えながら 生きてゆく

秋に呼ばれ 視えた冬	いつかは消えてゆくのだと	美しい川と その色も	私の心を魅了します	まるで夕陽の 洒落た色は	いえない 秋の枯草の	「色褪せ ちやつて悲しいね」	夏に呼ばれ 視えた秋	私の心に 灯火を	遙か遠くの 打ち上げ花火は	祭りほ夏の 誇りで可	心を涼ませて くれるでしょう	風鈴の音が 笑う頃は	暑苦しくて 焦れ返るけれど	春に呼ばれ 視えた夏	山口市立湯田 中学校 二年	藤井 愛莉
---------------	--------------	---------------	-----------	-----------------	---------------	-------------------	---------------	-------------	------------------	---------------	-------------------	---------------	------------------	---------------	------------------	-------

巡	私	輝	冴	脆		い	逢	私	日	花	穏	冬		冬	冬	私	肌	笑	真
り	の	き	つ	く		っ	え	の	本	よ	や	に		の	の	の	の	顔	赤
巡		が	く			か	な	心	の	り	か	叫		心	空	心	温	の	頬
っ		ら				は	く	も	桜	の	い	ば		に	気	に	度	の	に
た						数	ら	踊	が	舞	視	え		冷	は	馴	に	雪	に
季						多	る	り	舞	い	え	に		た	凍	染	に	の	さ
節						に	仲	だ	い	踊	春			い	り	人	華	可	も
の						ら	間	す	り					温	で	で		の	は
お						で	違							も	溶	り			
ほ						し	も							り	け				
は						と	う							そ					
し						く								が					

盆祭り

山口市立湯田中学校 二年 吉富 咲那

涼しげな水色の衣をひらかえし

娘は明るき夜を歩く

ばんばん ぼん

にぎやかな声ひびく

あれは何の箱だろうか

娘は問ふ

あれは、しよらうらうらである

その母は問ふ

死んだ者の魂がある

ちひさなちひさは箱

川に流れてゆく

火の灯は箱

娘はそれをはかめ続けた

